

## まえがき

一人っ子で生まれた私は、比較的自由気ままに育てられ、いつもマイペース。サービス精神なんて持ち合わせず、ましてや、かいがいしく人のお世話をするなんて思いもありませんでした。そのため、当然のことながら秘書に憧れを抱いたこともなく、そんな仕事に就こうと考えたこともありませんでした。

そんな私が大学を卒業して自動車会社に就職、そこで思いがけず秘書として働くことになりました。秘書としてはまったく不向きと自覚していましたが、これも神様のお導きだったのかもしれない。数人の上司のもとで秘書を務めておりましたが、ここで中心的に取り上げているボスのもとで私の仕事人生・秘書人生の大半が培われたといっても過言ではなく、これからご紹介するエピソードや考えのほとんどは、この期間の経験によるものです。

以来、紆余曲折はあるものの、気づけば秘書歴もゆうに20年を超え、最近は秘書としては1周回ったような、満足感と虚脱感を抱いています。

20年あまりの間に、いくつか職場を変りましたが、渦中にいるときは、ユニークなボスの奇想天外な行動にあっけに取られたり、時には山積みの書類を前にフラフラになりながらも働いたり、胃が痛くなる思いをしたこともよくありました。

ひと口にボスといっても、さまざまなタイプの方がいます。事実、私もまったく対照的な性格のボスたちのもとにりましたが、秘書を置くような立場にいる方の多くは、その重責のせいか、または多忙さのせいか、ワンマンだったりわがままだったりすることも否めませんでした。

大声で叱責されたこともあれば、本気で喧嘩をしたこともあります。文字通り、ボスの言動にいちいち反応し、一喜一憂したものです。今から思えば、秘書としては不出来そのもので反省点が多々ありますが、それでも当時は必死でしたのでご容赦ください。

けれど、振り返ってみると不思議なことに、どの職場でも、どのボスとも人間関係が悪くなることはなく、どちらかといえば割と良好だったと記憶しています。単に能天気なだけだったのかもかもしれませんが、私なりの人（ボス）付き合いのコツがあつて、それを知らず知らずのうちに実践していたのかもしれない。

この本を手を取っていた方の中には、かつての私のように、気難しい上司や同僚の前に孤軍奮闘している方がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。お勤め先や働き方はそれぞれでも、共通の悩みが多くあるはず。

私の経験、特にクセモノ上司攻略法が、時間を経て、そんなあなたの心を和らげる手助けになれば嬉しい限りです。